

## 疾患補助（認知症リスク因子14項目）

2024年に「Dementia prevention, intervention, and care 2024」が発表され、2020年の論文に記載のある12の修正可能な認知症のリスク因子に加え、新たに2つのリスク因子が加わった。

### ランセット誌「認知症予防・介入・ケア国際委員会」とは

The Lancet(ランセット)は、イギリスで創刊された世界的に権威のある医学雑誌である。このランセットが主導するThe Lancet Commissions(ランセット委員会)は、医療・公衆衛生の重要課題について、国際的な専門家が協力し、エビデンス(科学的根拠)にもとづいた調査・分析と提言を行っている。

2024年に「Dementia prevention, intervention, and care 2024」を公表したランセット認知症予防・介入・ケア国際委員会は認知症に特化した委員会で、政策や医療、研究における意思決定に影響を与えることを目的に組織されている。

### 「認知症予防・介入・ケア国際委員会による2024年の論文」の概要

2020年の論文では、①教育水準の低さ、②難聴、③抑うつ、④頭部外傷、⑤運動不足、⑥糖尿病、⑦喫煙、⑧高血圧、⑨肥満、⑩過度のアルコール摂取、⑪社会的孤立、⑫大気汚染の12項目の認知症の修正可能なリスク因子が報告されている。そして2024年の論文では、⑬LDLコレステロール値、⑭視力の低下が加わった。

これらの14のリスク因子が認知症と関連があると示されており、早期の改善が望ましく、年齢にかかわらず早期に対応することで発症の遅延や進行の抑制につながる可能性があるとして記されている。

認知症の半数近く(45%)が前述した14の修正可能なリスク因子と関連していると述べられており、年齢を3つのステージ(18歳未満、18歳～65歳、66歳以上)に分けて検討したところ、特に18～65歳の時期でのリスク因子の改善がその後の経過に大きく関係する可能性があるとして示されている。